

○東京家政学院大学「SDG s と家政学」講演会の様子と生徒の感想



東京家政学院大学より、
上村協子教授をお招きしました。

☆受講した生徒から東京家政学院大学 上村教授へのお礼と感想

1年 F.A さん

《選んだテーマ》 人生 100 年時代について

《キーワード》 人生はお金だけじゃない、人生を豊かにするためにある

「生活に必要なものはお金だけではない」ということは分かるが、お金がなければ生きていけない。しかし、お金を「どう生み出すか」ということではなく、お金と共に人生を「どう生きていくのか」ということが大切だと思う。

私自身、家庭に経済力があるから現在の豊かな生活ができています。例えば、衣食住に困っていなかったり好きなキャラクターのグッズを買ったりできるのも、家庭の経済状況が良いからだ。「お金」は、「人生」に豊かな彩りを与えるものであると思う。将来きちんと自立したときに、今日学んだ経済観念を忘れずにいたいと思う。

1年 O.Y さん

《選んだテーマ》 人生 100 年時代について

《キーワード》 誰かに教えてもらう人生ではなく自分で見つけられる人生

日本の学生の半数以上が自分は無価値だと考えていて、自分の個性を信じられず、得意なことを見つけれず、人生に邁進できずにいるという話を聞き、驚きました。自分の人生なのに、なぜ、そんなにもネガティブなのだろう。

講演の中で私の心に残った言葉が「誰かに教えてもらう人生ではなく、自分で見つけられる人生」でした。

第三者に「こんなふうに生きたら？」と教えてもらえば、一時はアドバイス通りに生きようとするかもしれませんが、長くは続かない。なぜなら、誰かに教えてもらうよりも、たとえ失敗ばかりでも、自分で考えた「自分の生き方」の方が信じ続けられるはずだからです。

支え合いも大事ですが、何でもかんでも手を差し出すのではなく、誰もが自分で考えて、自分で気づけるような、そんな支え合いを大事にしたいと思います。



1年 N.Sさん

《選んだテーマ》 持続可能な開発目標

《キーワード》 ニーズ

今回の講演で印象に残ったのは、SDGs11・SDGs12と家政学についてのお話です。

SDGsの目標11は「住み続けられるまちづくりを」であり、持続可能な都市開発や人間居住の方法を考えます。また、目標12は「つくる責任、つかう責任」であり、再生によって使い続けられるものづくりの実現を目指します。

上村先生は、目標11・12を達成するために家政学に出来ることは、「ひと」と「ひと」をつなぐこと、「ひと」と「モノ」をつなぐこと、「時代の文化」をつなぐことだと仰いました。また、東京家政学院大学の創設者である大江すみさんは、「人々のしあわせにつながる家政学」を掲げました。

家政学というと「家庭の中の問題解決」のように思われますが、地域や社会における人間生活の快適性の追求という広がりもあるそうです。私も、社会が抱えている問題や課題を発見し、自分の事として捉え、解決するには何をすべきか、国内だけではなく世界の視点や考え方へと視野を広げたいと思いました。

今日はお忙しい中、貴重なお話をしてくださり、本当に有り難う御座いました。

1年 M.Hさん

《選んだテーマ》 みんなの暮らしをよくしたい

《キーワード》 答えを誰かに与えられる人生ではなく、自分で探す・作り出す人生

「誰かに与えられる人生ではなく、自分で探す・作り出す人生、自分自身でどのような生活をしたいか、生み出すことができるか」という提案を聞いて、最初は難しい課題だと感じました。しかし私は、無意識のうちに日常生活で、少しずつだが見繕っている事なのかも知れないとも思いました。

なぜなら、横浜清風高校を受験したのも、誰かに与えられたのではなく自分で決めたことだからです。自分の将来について考えることで、自分の将来を探し作り出すことができるのだらうと思いました。

1年 U.Rさん

《選んだテーマ》 みんなの暮らしをよくしたい

《キーワード》 先のみえない社会

日本の半数以上の若者が、「夢を叶えたり社会を変えたりする力を持っていない」と考えているという話を聞き、改めて自分はどんな力を持っているのか、自分の夢は何かを考え直そうと思いました。

その上で見つけた考えや思いは、全てが正しいとは限らないが、すぐに諦めたり手放したりするのではなく、一つ一つ大切にしていけることが大切だと思います。